



きぼうのいずみ

蘇原第二小学校
学校だより
第12号（最終号）
令和7年3月24日

「6年生ありがとう集会（2月28日）」で6年生に感謝の気持ちを伝えました！

この集会は、5年生の企画・運営のもと、お世話になった6年生に向けて、1年生～5年生が感謝の気持ちを伝える大切な会です。この日のために、各学年は、「呼びかけ」や「劇」、「替え歌」などの練習を重ねてきました。そして、本番は次のようにどの学年も頑張りました。

1年生は、掃除でお世話になったことや連絡帳をチェックしてもらったことを上手に劇で伝えました。また、感謝の気持ちを「子犬のマーチ」の替え歌で元気いっぱい表現できました。

2年生は、通学班でお世話になったことを劇と歌で伝えました。「青い空に絵をかこう」という歌では、どの子もダンスをしながら笑顔いっぱいで歌うことができました。

3年生は、なかよし遊び（縦割り遊び）でお世話になったことを「パフ」の替え歌にしてダンスをしながら歌ったり楽器演奏ができました。代表の子がせりふを言う場面では、楽器演奏をピタッと止めることができ、集中力の高さを感じました。

4年生は、いずみ（クラブ）活動でお世話になったことを「茶色の小びん」という曲の替え歌と楽器演奏で伝えました。それぞれの楽器の音色が美しく揃っていて、聴く人に気持ちが伝わる演奏になりました。

5年生は、会の運営だけでなく、委員会活動での6年生一人一人の素晴らしい姿をその子の名前を伝えながら堂々と話すことができました。6年生の入場時に演奏した「威風堂々」は、全員の音をしっかりと揃え、会場全体の雰囲気がピリッと引き締まりました。会の終盤、6年生から学校のことを引き継いだ5年生の表情から、リーダーとして頑張ろうという意欲が伝わってきました。

会の最後は、6年生がお礼の気持ちを込めて、学年合唱を披露しました。卒業式に合唱する「絆～キミとボクのたからもの～」、「今、卒業の時！」という2曲を心を込めて歌う姿に、下学年の子の中には感動して泣いている子もいました。参観いただいた見まもり隊などお世話になった地域の方からも「感動しました。涙が出た。」という声をたくさんいただき、みんなの心に残る素敵な会になりました。



「宮城県東松島市立矢本東小学校との交流再開！（3月10日）」

蘇原第二小学校は、東日本大震災で被害に遭った矢本東小学校と6年前に交流をしていました。当時の鷺見校長先生が震災後、東日本大震災復興支援教員として矢本東小へ行かれたことがきっかけで交流が始まったものです。震災後、蘇二小のPTAからは、ベルマークで得た収益で支援物資を送ったり、子どもたちからはメッセージや千羽鶴などを送ったりしました。また、合唱発表会や学芸会のDVDを送り合い、交流を深めていきました。

交流はコロナの影響で一旦途絶えてしまいましたが、矢本東小の校長先生からの依頼によって交流再開となりました。今回の交流は、ZOOMをつなぎ、それぞれの代表児童が学校紹介をし、震災から復興に至るまでの話を聞いた後、「いのちの歌で」の合唱をお互いに聞き合うという流れです。

この「いのちの歌で」という曲は、蘇二小の開校40周年を記念して作曲家の宮川彬良さんが蘇二小のために作ってくださった曲です。この交流会を再開するにあたり、この曲が生まれたきっかけとなった当時の石田教頭先生が合唱指導をしてくださいましたので、当日は、元気いっぱい心を込めて歌うことができました。6年ぶりに行った矢本東小学校との交流でしたが、お互いに学ぶことがたくさんありました。今後も子どもたちのために交流を続けていきたいと思いました。

一年間、本校の教育活動にご理解とご協力をいただき誠にありがとうございました。